

6次産業化による取組事例 〔沖縄県大宜味村〕

1. 地域農業の状況

- 大宜味村は、沖縄本島の北部に位置しており、村のほとんどは「山」であり、自然豊かな森と、海に囲まれ、山と海岸の間のわずかな平地や山間部に集落が点在している。



- また、「長寿の里」「芭蕉布の里」「シークワサーの里」「ぶながやの里」として知られ、中でも日本一の長寿村として、豊かな自然の恵みを生かした伝統ある食文化などが、多くの注目を集めている。
- 農地は山間部に集中し、シークワサーや茶とともにパインアップル、サトウキビ、野菜、花きなどが生産されている。
 - かつてはパインアップルの産地だったが、パイン缶詰の輸入増大に伴う価格の低迷等による離農者の増加や農業者の高齢化・後継者不足の進行によって、耕作放棄地が増加している。

耕地面積	296ha	総農家数	252ha
田耕地面積	11ha	自給的農家数	85ha
畑耕地面積	285ha	販売農家数	167ha

資料：耕地面積統計（H26年）、2010年農林業センサス（農林水産省）

2. 耕作放棄地再生利用の取組

取組主体	大宜味村地域耕作放棄地対策協議会	地区名	江洲、白浜、大工又
再生面積	25.83ha	取組年次	平成21年度～
作付作物	サトウキビ、そば	販路	地元店舗

(1) 取組のきっかけ

- 大宜味村地域耕作放棄地対策協議会が、耕作放棄地の解消、赤土の流出防止対策として、そば栽培を推進したのがきっかけ。今では、村の特産品としてそばのPR活動を積極的に行っている。

(2) 村の特産品として積極的に推進

- 協議会が地権者と調整を行い、平成21年から平成25年度までに25.8haの耕作放棄地を解消し、延べ23戸の担い手へ農地集積が図られた。再生後の農地にはサトウキビ、そばなどを作付け。
- 平成22年12月に発足した若手担い手からなる大宜味村蕎麦生産組合が、再生された約20haの農地でそばの2期作を行い、栽培からそば粉の製造、村内の飲食店に提供を行っている。
- 平成26年3月に「大宜味産和そば」として商標登録され、新たな特産品として販売拡大を目指しており、さらなる耕作放棄地の解消によるそば生産に取り組む。



【再生前】



【再生後のそば栽培】



【そば収穫作業】

活用した支援策

H21～ 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金（国）